

〔第45回〕

NCGG-R1 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

老化に伴う睡眠形態の変容と 食餌制限の作用について

中枢性老化・睡眠制御研究プロジェクトチーム

佐藤 亜希子 プロジェクトリーダー

2019年11月12日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

哺乳動物では、老化に伴い、さまざまな睡眠形態の変容と睡眠の質的な低下が引き起こされる。また、マウスやヒトでは、睡眠の質的低下が末梢組織・臓器の代謝機能低下などに繋がる知見が報告されている。従って、睡眠の質的な低下は、単なる老化現象としての結果というだけではなく、老化自体を規定する要因となりうるのではないかと考えている。最近我々は、食餌制限が老化に伴う睡眠形態の変容を可逆的に改善させることを明らかにした。さらに、その分子制御機序として、視床下部背内側核に高発現するPR domain-containing factor 13陽性神経細胞が関与していることを見出しつつある。食餌制限は、広範な生物種で老化現象を遅延し、個体寿命を延長することが知られている為、そのメカニズム解明に注目が集まっている。しかしながら、まだまだ不明な部分が多く残されている。本研究から食餌制限による改善しうる老化に伴う睡眠変容の制御機序を明らかにすることは、哺乳類の老化・寿命の根本的なメカニズム解明に繋がることが期待される。加えて、睡眠の質の低下を初期変容とする老化関連性疾患の予防に繋がることも、大いに期待される。

座長：赤木 一考

連絡先：副所長室(内線5002)